

《最新刊》2009年4月5日 出版

『シリーズ21世紀の農学』

地球温暖化問題への農学の挑戦

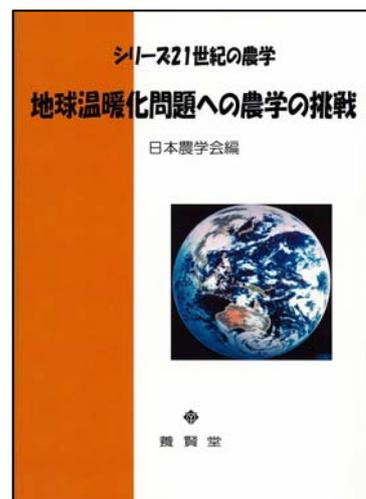
日本農学会編

出版：養賢堂

2007年2月、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、その第4次評価報告書の中で「温暖化はすでに起こっており、その原因は人間活動による温室効果ガスの増加である」とほぼ断言しています。今後、人類はこれまで経験したことのない温暖化時代に突入すると予測され、その対応策が求められています。

農林水産業は食料生産を担う重要な産業であることは論を待たないが、一方で土地利用の変化、管理の集約、資源の多投入化によって温室効果ガス排出を増加させてきた側面も持っています。今後、人類が持続可能な発展を目指すには、農学領域においても温室効果ガス排出量を削減することが重要です。また、食料生産システムを温暖化する気候に適應させること、さらには代替燃料としての需要が高まっているバイオマスエネルギーの増産に伴う種々の問題なども発生しています。平成20年10月11日開催されたシンポジウムでは、地球温暖化に関わる多様なトピックスを紹介し、農学分野からどのような対応が可能かについて、その問題点を明らかにし、今後の研究を進展されるための機会を目的としました。

本書は、その成果の概要を詳細にわかりやすくまとめ、充実した内容の1冊となっています。地球温暖化の研究者はもとより、学生や一般の方々など温暖化に関心のある方にもお奨めします。



◆体裁 A5判 約211ページ

◆定価 2,000円（税込）

■主な収載項目■

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 第1章 地球温暖化への対処：緩和と適應 | （国立環境研究所 西岡秀三） |
| 第2章 水稻を中心とした作物栽培におよぼす影響と適應策 | （農業環境技術研究所 長谷川利拡） |
| 第3章 地球温暖化が水産資源に与える影響 | （北海道大学 桜井泰憲） |
| 第4章 農業におけるLCA－農の温暖化評価とその活用－ | （茨城大学 小林 久） |
| 第5章 バイオ燃料生産と国際食糧需給問題 | （九州大学 伊東正一） |
| 第6章 バイオ燃料と食糧の競合と農業問題 | （東京大学 五十嵐泰夫） |
| 第7章 農耕地からの温室効果ガス排出削減の可能性 | （農業環境技術研究所 八木一行） |
| 第8章 わが国での反すう家畜の消化管内発酵に由来するメタンについて | （畜産草地研究所 永西 修） |
| 第9章 森林分野の温暖化緩和策 | （森林総合研究所 松本光朗） |
| 第10章 炭素貯留源としての木材の役割と持続的・循環的な国産材利用 | （京都大学 川井秀一） |

日本農学会

〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1

TEL03-5842-2287

FAX

03-5842-2237

URL : www.ajass.jp